

JA全農えひめ情報

おひら~ど

■特集

JA全農えひめ「水田フル活用」の取り組みについて

2

2015・February





「愛媛いよかん」 いい予感イベント (東京・湯島天神)



J A全農えひめは、「愛媛いよかん」いい予感」というキャッチコピーのもと、今年も大学センター試験を控えた1月10日、東京都文京区の湯島天神の境内で、合格の縁起物としてお祓いを受けた「愛媛いよかん」を参拝者先着3,000人に無料配布しました。

今回で30回目を迎え、受験シーズンの恒例行事になっており、受験生・家族で行列ができるなど好評です。当日は、「合格まで風邪をひかずに頑張ろう。愛媛いよかん」いい予感」の天幕の下で、かすり姿の女性らが伊予柑を配布し、参拝者に喜ばれました。

福島市の福島稲荷神社の「いよいよ開運 いい予感」と伊予柑を無料配布するイベント、学習塾の寺小屋グループ（本部：松山市）の「年末年始集中特訓」（11ページで紹介）の伊予柑配付イベントなどにも協賛する中で、「愛媛いよかん」いい予感」の注目度は着実に上がってきました。J A全農えひめは、今後こうした取り組みを通じて伊予柑のイメージアップと消費拡大・販売促進につなげていきます。

めぐり〜ど

February 2015

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



咲きはじめた梅の蜜を吸いに来たメジロが見ていたのは、集団下校の子どもたち。今日は学校で節分用の鬼のお面を作ったんだね。雪が積もった田んぼのあぜで、早速、鬼ごっこをはじめる子。小袋から豆を投げる子。寒さ知らずの元気な子どもの笑い声に後押しされて、もうすぐ春がやってきます。

●表紙：紅梅とメジロ
はら ふみ(イラストレーター)

※『めぐり〜ど』は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.170

「愛媛いよかん＝いい予感」イベント
(東京・湯島天神)

2

〈特集〉

JA全農えひめ「水田フル活用」の取り組みについて
生産者の所得向上と耕作面積の維持に向けて
「水田フル活用」を推進します。

8

ふるさと ESSAY VOL.238

映画「食堂ゆすかわ」
遊子川の熱い想いに触れて
森 幸一郎さん

10

TOPIC NEWS

14

なんでもBOX

15

統計BOX

16

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉ブロッコリー

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)

<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめ物流(株)

<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<http://fresh-ranran.jp/>

◆(株)ひめライス

<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

生産者の所得向上と耕作面積の維持に向けて「水田フル活用」を推進します。

米を取り巻く情勢は、消費量の減退と過剰作付により大幅な過剰在庫が発生し米価が低迷しており、生産者の栽培意欲が減退して耕作面積がさらに減少することが懸念されています。こうした中、生産者の経営所得の安定・向上を図り、将来にわたって県内の水田耕作面積を維持するため、JA全農えひめは、平成27年度から「水田フル活用」を展開し、主食用水稻を中心に麦や野菜など裏作物品目の作付拡大と生産対策などを推進していくこととしました。

今回は、「水田フル活用」の基本的な考え方と具体策を紹介します。

情勢・背景

現在の米を取り巻く状況は、消費量の減退と生産数量目標に対する過剰作付けや国の過剰米対策が講じられないこと等により、大幅な過剰在庫が発生し米価格は低迷をしています。さらに、平成26年産から米価変動補填交付金が廃止されたことにより、農家経営は非常に厳しい状況となっています。

こうした状況のもとで、生産者の

栽培意欲は減退し耕作面積がさらに減少することが懸念されることから、国の事業等を利用した現行の水田面積の有効活用と生産コストの低減対策を講じながら、生産者の経営所得安定を図ることが必要です。

「水田フル活用」の基本的な考え方

将来にわたって本県水田耕作面積を維持するため、主食用水稻を中心として、麦・冬春野菜等の裏作物品目

の作付拡大や水田活用米穀・大豆等の転作物品目の導入を推進し、現行耕作面積のフル活用を提案します。併せて、省力栽培技術の普及推進、品質・収量向上対策、生産資材及び流通資材のコスト低減対策を実施することにより生産者の収益確保と経営安定を支援します。

「水田フル活用」の具体策

1. 主食用米については「売れる米づくり」に向け、県内需要や生産

水田フル活用 of 基本的考え方

- 1 「売れる米づくり」に向けた作型別・銘柄別の作付誘導
- 2 水田活用米穀（政府備蓄米・飼料用米・加工用米）の作付推進
- 3 水稲・麦・大豆によるブロックローテーションの推進
- 4 裏作での加工業務用野菜、共販冬春野菜の作付拡大

経営所得安定 対策の活用

JAによる交付対象者申請の支援

トータルコストダウンの実現

収量・品質 向上対策

- 土壌診断・適正施肥
- 病害虫の適期・適正防除

水稲種子価格低減対策

- 種子供給価格低減対策
- 種子早期引取奨励

省力・低コスト栽培技術

- 鉄コーティング湛水直播栽培普及推進

省力化・低コスト生産資材対策 (肥料・農薬)

- 担い手組織予約価格対策
- 省力資材・技術
- 大型企画
- 配送効率化

流通資材コスト低減対策

- 米用紙袋価格低減対策
- フレコン集荷

- 数量目標に対応した作型別・銘柄別の作付誘導を推進します。
2. 生産数量目標で削減される面積については、主食用米以外の水田活用米穀の作付けを推進します。
 3. 水稲・麦・大豆のブロックローテーション（二毛作体系）の作型を推進します。
 4. 現状の水田面積を活用した、裏作による加工業務用野菜や地域での共販品目の冬春野菜の作付拡大を推進します。
 5. 水田農業経営の生産費削減を目的に、省力栽培技術、品質向上対策、低コスト生産資材の提案を行い、トータルコストダウンを図ります。
 6. 水田フル活用を推進するための「経営所得安定対策」等の有効活用と担い手の育成を支援します。
- 項目別の具体的取組内容**
- 1. 主食用米の品種別・作型別作付計画の策定**
- 【当面の作付の考え方】**
- 本県は米消費県であり県内の主食用米生産量については県内消費されていることと、直接支払交付金制度が当面維持されることから、生産数

◆特集：JA全農えひめ「水田フル活用」の取り組みについて

表1 水稻の作付計画・目標

品 種 (単位)	26年産 作付見込 (ha)	27年産 作付目標 (ha)	30年産 作付目標 (ha)
コシヒカリ	4,850	4,800	4,700
あきたこまち	3,530	3,500	3,400
ヒノヒカリ	3,900	3,700	3,600
にこまる	1,660	1,700	1,700
松山三井・しずく媛	310	550	550
その他	650	590	550
主食用等合計	14,900	14,840	14,500
備蓄米他米	90	70	700
飼料用米	120	200	
WC	90	90	
合 計	15,200	15,200	15,200

進めます。

〈現状〉
早期6…普通期4
〈30年産目標〉
早期4…普通期6

② あきたこまち
品質・収量低下により作付けが減少傾向にありますが、県内卸で一定の需要が見込まれることから、需要量を確保するため現行作付面積

量目標を基本とした主食用米の作付けを推進するとともに、県内実需者と連携しながら「売れる米づくり」をめざします。

作付品種は、「コシヒカリ」「あきたこまち」「ヒノヒカリ」及び「にこまる」を主力品種として、品種ごとに県内需要に応じて生産誘導を行います。

① 品種ごとの作付け
「コシヒカリ」は、最も需要が安定している品種であり、現行の面積を維持します。しかしながら、需給環境の変化により県産早期米に対する需要が減少傾向にあることから、バランスのとれた作型への変更を推進します。

を維持します。

③ ヒノヒカリ
生育期間中の高温により品質低下が顕著に現れている地域では、「にこまる」に作付転換します。また、移植時期の見直しや肥培管理・水管理等により高温対策を推進します。

④ にこまる
県内の平坦地域を中心に生産振興を行い、「食味」に重点をおいた栽培指針の策定による高品質・安定生産を推進します。また、県内消費者の認知度向上を図るとともに、県内卸と連携し販売促進による需要拡大を図ることにより、「愛媛県産にこまる」のブランドを確立していきます。

⑤ 酒造用一般米「松山三井」、酒造好適米「しずく媛」
近年、特定名称酒（純米酒・本醸造酒）の需要拡大に伴い酒造組合より生産拡大への要望があるため、需要に対応した契約栽培を推進します。

② 今後の作付計画と売れる米づくり
平成30年より国による生産数量目標が廃止されることから、米消費県である本県においては、県内需要への安定供給を行うため主食用米作付

面積は14,500ha以上を確保します。

品種ごとの作付けについては、基本的に27年産の作付比率を基に表1の計画により作付けを推進します。

② 売れる米づくりの推進
学校給食会、業務加工、主要量販店等の県内実需者と連携し、需要に応じた作型推進による買取方法の検討を行います。特別栽培米や酒米契約栽培等の推進による契約加算米の拡大や、差別化の図れる良食味の高付加価値米の作付を推進します。

また、多収性良食味で本県の気象条件に適応した次世代品種の開発について、行政等関係機関と連携して取り組みます。

2. 水田活用米穀の作付推進
【水田活用米穀の作付の考え方】
米の需給回復のため生産数量目標が削減されるなかで、現行の水田耕作面積をフル活用し、主食米以外の水田活用米穀の作付けを推進します。また、経営所得安定対策を利用し主食用米と同等の生産者手取りを確保します。

① 水田活用米穀の品目と取扱い
水田活用米穀の仕向け用途は、政府備蓄米・飼料用米を基本とします。

表2 麦・大豆の作付計画・目標

品 種 (単位)	26年産 作付実績 (ha)	27年産 作付目標 (ha)	30年産 作付目標 (ha)
マンネンボシ	1,488	1,521	0
ハルヒメボシ	58	85	1,665
そ の 他	94	94	35
はだか麦計	1,640	1,700	1,700
小 麦	159	200	200
麦 類 合 計	1,800	1,900	1,900
大 豆	322	500	500

また、一定県内で作付要望のある加工用米の作付けを検討します。

水田活用米穀の取り扱いについては全農の一括取扱いスキーム（全国共同計算）を基本に取り進めます。

〈水田活用米穀一括取扱いスキーム〉
政府備蓄米・飼料用米・加工用米などの非主食用米を水田活用米穀として一括に取り扱い、品目別需給のミスマッチの解消や品代のプール計算による生産者手取りの平準化をはかる取り組み。

（2）水田活用米穀の品種

水田活用米穀の品種については、生産者が作り慣れていることやC E（カントリエレベーター）における管理が容易（異品種混入問題にも対応可能）であることから、基本的に主食用品種での一括管理による作付けを推進します。

ただし、従来から耕畜連携が図られ、主食用と区分管理が可能な地域（集団）では、多収性専用品種の作付けを行います。

（3）県内畜産農家との連携

飼料用米の取り組みにあたって、県内畜産農家からは安価かつ安定的な供給を求め

られており、国の制度に左右されず継続的に取り組むことができる仕組み作りが必要です。当面は、米消費県のため一定の主食用米生産は必要という県内事情をふまえながらも、地域ごとに水稲農家と畜産農家の連携の仕組作りの検討を進めていきます。

3. 水稲・麦・大豆のブロックローテーション（二毛作）の推進

【ブロックローテーションの考え方】

集落営農組織等の法人経営体や大口生産者に対し、水稲・麦・大豆のブロックローテーションを推進します。

（1）麦の作付

はだか麦の品種構成は、当面の間、実需者から一定評価がある「マンネンボシ」を中心に需要に応じた作付けを推進しますが、高品質・収量向上が期待される新品種「ハルヒメボシ」へ30年産を目標にスムーズな切り替えに取り組みます。

小麦の品種構成は、実需者から要望の高い「チクゴイズミ」「ミナミノカオリ」とします。

また、麦の品質向上を図るため計画的な種子更新を推進します。

（2）大豆の作付

大豆については、加工適性に優れた実需者から要望のある「フクユタカ」を重点銘柄とし生産振興を図ります。

また、湿害対策等の基本管理の徹底を図ることにより収量向上に努めます。

（3）今後の作付計画

麦等の今後の作付けについては、実需者への需要拡大を図りながら、表2の計画により作付け推進します。

4. 裏作としての加工業務用野菜・共販部会野菜の作付推進

【裏作の野菜等の作付けの考え方】

水田農業の生産者経営所得の向上を図るため、米の裏作による新たな加工業務用野菜や既存の生産部会による共販部会野菜の作付拡大の推進を図ります。

品目の選定は、産地の環境条件や経営体系を考慮して選択します。

（1）加工業務用野菜の作付

加工業務用野菜については、近年、コンビニエンスストアや外食チェーン店仕向けとして、全国的に需要が拡大しています。納品先のニーズに対応するため、産地での面積拡大によるロットの確保や出荷対応期間の延長が必要となることから大口生産

◆特集：JA全農えひめ「水田フル活用」の取り組みについて

者への作付推進を行います。

また、コスト低減を図るため県単事業等を有効活用した機械化の検討を行います。

【対象品目】業務用たまねぎ品種・業務用キャベツ品種

(2) 共販部会野菜の作付

共販部会野菜については小・中規模生産者を中心に作付推進を行い、既存の生産部会への加入による市場販売中心の共同出荷を行います。なお、共販部会野菜は小面積及び初期導入コストを抑えた取り組みが可能です。

【対象品目】レタス・ブロッコリー・ほうれん草・キャベツ

(3) 新規作付推進への支援

「トータルアグリード事業要領」により、新規作付者に対して種苗代や生産資材費を助成します。業務加工用野菜の面積拡大に係る労働力確保については、JA・行政が一体となり、地域の実情に応じて、農業法人や集落営農組織、作業受委託組織等と連携し取り組むこととします。

5. トータルコストダウンの取り組み

【トータルコストダウンの考え方】

米価格の低迷により生産資材費の

低減が望まれるなか、JAグループの系統結集運動をさらに強化して、生産資材や流通資材価格の引き下げに取り組むとともに、省力栽培技術の推進と収量・品質向上対策による収益アップを目指しトータルコストダウンに取り組めます。

(1) 収量・品質向上対策

近年、土づくり意識の低下や労働力不足から地力の低下が著しく、収量、品質は低位安定しているため、基本に戻り土壌診断に基づく土づくりや深耕、適正施肥を実践していきます。また、併せて病害虫発生予防に基づく適期・適正防除を啓蒙推進し、収量と1等比率（品質）の向上を図り所得向上をめざします。

(2) 水稲種子供給価格低減対策

水稲種子の供給価格全般について価格低減を検討していくとともに、早期引取要領を策定し対象品種の予約量を一定時期までに全量引取したJAに対し早期引取奨励措置を検討します。

(3) 省力・低コスト栽培技術の取り組み

省力・低コスト栽培技術として「鉄コーティング湛水直播栽培」が一定確立されており、作付規模等条件の適合する地域で導入を推進します。

この技術の導入により、移植に係る作業の省力化（育苗不要）が図られるため、労働時間で2割程度の削減と、育苗に係る生産費で1割程度の低減となることで生産者の省力・低コスト化を図ります。

また、播種から収穫までに必要な日数は、同一品種の移植栽培と比較して10日程度長くなるため、移植栽培との組合せにより収穫時期を分散させ作業の効率化を図ります。

なお、直播栽培については直播専用機械の導入が必要であるため、県単事業等の有効活用を推進します。

(4) 省力・低コスト生産資材対策

① 肥料

基肥一発肥料や緩効性穂肥、苗箱まかせ等肥効調節型肥料を効率的に使用することで、施肥労力の低減による省力化を図っていきます。また、ハイチッソ一発肥料や流し込み施肥用の液肥等による実証試験を行うとともに現地普及を行い、省力並びに低コストの両方をめざします。

価格面においては、これまで取り組んできた担い手組織予約価格対策等の充実により生産者負担の軽減を進めるとともに、満車直送などの活用により少しでも安く供給できるように取り組みます。



② 農薬

箱処理剤の施用徹底により防除効率を高めるとともに、播種時同時処理技術の普及、啓蒙により更なる省力化を図ります。また、無人ヘリ散布等も併用してトータルの労働力の削減をめざしていきます。

肥料同様に、担い手組織予約価格対策等の充実により生産者段階の価格を引き下げる一方、大型規格品目の推進や思い切った価格品目の設定に取り組みます。

(5) 流通資材コスト低減対策

① 米用紙袋の価格低減

米用紙袋は、原紙価格や製造コストの上昇により値上げ傾向にあります。早期引取に対する奨励措置を講じて価格抑制に努めます。

② フレコン集荷

労力の低減や人件費・紙袋等のコスト低減を図るため、一定の生産規模で乾燥調製設備を有する大口生産者（または集落営農組織）に対して県単事業やＪ

Aでの助成要領によりフレコン出荷用の機器（昇降機・計量機等）導入を推進します。

また、個人調製玄米のフレコン集荷を推進するためＪA全農えひめでフレコンバックを無償貸与します。

6. 経営所得安定対策等有効活用の取り組み支援

平成27年産から水田活用を支援するための「経営所得安定対策」（畑作物の直接支払交付金、米・畑作物の収入減少影響緩和対策）の交付対象者が「認定農業者」「集落営農」「認定新規就農者」となるため、交付対象者となるための認定申請について地域ＪAがサポートを行います。

特に、米価変動補填交付金が26年から廃止されていることから、減収額を一定補填する米・畑作物・収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）への加入について推進します。

今回紹介した「水田フル活用」の取り組みは、26年度に入り「トータルアグリード事業」の食糧班を中心に関係部署も入った中でプロジェクト班を設置し、検討を進めてきたものです。

ＪA全農えひめ食糧部では、昨年

12月開催の「営農振興ＴＡＣトップセミナー」などを通じて考え方を示すとともに、1月から各ＪAのＴＡＣ月例会等に出向き、「水田フル活用」に向けた企画提案を行っています。

今後は、ＪAにおいて水田フル活用に向けた推進品目の選定を行い、ＪAとＪA全農えひめの担当者が連携を密にし、品目ごとの課題抽出を行い、目標達成に向けて推進強化を図りたいと考えています。

また、ＪA営農振興計画に連動した水田フル活用達成に向け、ＪAとＪA全農えひめの営農・販売部門が連携しながら、ＪAのＴＡＣが集落営農組織等の法人経営体や大口生産者に対し、水田フル活用に関する企画提案・推進を図っていくことが重要です。

ＪA全農えひめ食糧部では、27年度からの取り組みに向けて要領等の整備を進めるとともに、ＪAへの提案と進捗管理をしながら、「水田フル活用」の定着と拡大を進めていきます。関係者のご協力をよろしくお願いします。



映画「食堂ゆすかわ」 遊子川の熱い想いに触れて

「限界集落を舞台にした映画を作ってくださいませんか」。このような依頼をいただいたのは一昨年のことでした。私が初めて遊子川地区を訪れた時、そこで目にしたのは典型的な過疎の風景でした。お年寄りが目立ち、地区には飲食店はおろか信号すらありません。産業や観光資源になり得るものがほとんどないのです。「こんなところで映画が撮れるんだろうか」。最初はそう思いました。

しかし取材を開始すると、いろんなことが分かってきました。まず住民同士の連携が非常に強いこと。特に感心したのは地区に残った数少ない若者たちの姿勢です。何か行事があると彼らは率先して動きます。お年寄り（といってもここのお年寄りたちはみんな元気なのですが）たちと積極的にコミュニケーションを取り、笑顔で言葉を交わします。嫌がったりということは全然なく、まるで地区の人みんながひとつ

の家族のよう。現在の松山ではほとんど見かけなくなつた光景です。そして、もうひとつは住民の方みんなが笑顔で気安く接してくれること。ただ親切なだけではなく、どうしたらこの地区が生き残っていけるかを真剣に考え、行動していることです。

遊子川の人々の気持ちを知るにつれ、私は「ここに何かを残したい」という気持ちを強く持ちました。後にトマトが特産であること、農家レストランをオープンさせる計画がある等の情報を得て、トマトをモチーフにした、地区の食堂で働く少女の物語を創作していくわけですが、撮影中、地区を挙げた手厚いサポートは本当に心強かった。寒い中、温かい食事を用意していただいたり、自分たちの畑で作った野菜のお土産等もたくさんいただきました。松山から通つたスタッフたちも、深く感謝するとともに、地区の人々との交流を通じて各々が大きく成長させ

森 幸一郎

KOUCHIROU MORI

ヒメブタの会（愛媛を舞台にした自主映画の会）代表。映画監督、個人事業主、主夫。1968年12月9日生まれ、松山市出身。松山南高校在学中より映画制作を志し、大阪芸術大学芸術学部映像計画学科に進学。卒業後地元に戻り、広告代理・出版会社に13年半勤務した後、36歳で退職し個人事務所を設立。2010年同会を立ち上げ、たった1人で映画づくりを始める。およそ3年かけて制作した第1作「生まれては消え」は、三津浜を主な舞台として県内各所でロケを行い、150人以上のボランティアスタッフ・キャストを動員した4部構成・7時間以上の大作となった。2014年には西予市からの依頼で「食堂ゆすかわ」を制作。城川町遊子川地区を舞台に、過疎に悩む限界集落の問題に鋭く切り込みながらも、美しい風景と心温まる人情劇に仕上がっている。地元をはじめ、11月に松山で行われた上映会は全て立見の大盛況となり、首都圏での上映も決定。また、自らの制作活動のほか、愛媛でロケが行われる映画への制作参加や、映像制作を志す若者や学生への支援も積極的に行っている。家庭では外で働く妻のお弁当づくりと家事をこなす主夫でもある。

◆ヒメブタの会

URL / <http://www.himebuta.jp>



▲「食堂ゆすかわ」のクランクアップ(撮影終了)日の記念写真。左から4人目が森さん、6人目が未来さん

ていただいたのではと感じています。この映画には、地区の人々にも数多く出演していただきました。その中からひとつエピソードを紹介しましょう。出演者の中に未来ちゃんという子がいます。二十歳そこそこのとてもかわいい女の子です。同級生たちがみんな外へ出ていく中、彼女はこの地区に残ることを決め、この映画でも地元製作委員会の一員として大活躍してくれ

ました。私は彼女に、都会に憧れ遊子川を出ていく少女の役をお願いしました。最初は快諾してくれたのですが、いよいよ撮影という時になって、彼女から「できない」という連絡をもらいました。どうしても故郷のことを悪くいうセリフが言えないという理由でした。彼女が遊子川のことを誰よりも愛していることは十分理解していました。私は、「この役は未来ちゃんだか

す。私自身は、今年は松山に戻り、再び三津を舞台にした、古宿を営む姉妹の物語を作る予定です。最後に、三回にわたってこちらの誌面を汚してしまったわけですが、つたない文章を少しでも読んでくださった方に感謝申し上げます。



▲事務所で作業中(チョット、お疲れ!?)。「食堂ゆすかわ」の編集作業は納期に追われて大変だったが、今はそれも楽しい思い出

らお願いした。この役は、ここから本当に出ていきたいと思っている人には演じてもらいたくない。遊子川に住み続けたいと思っている未来ちゃんだから演じる資格がある」ということを伝えました。結果未来ちゃんは私の頼みを引き受けてくれました。出番の多い役ではありませんでした。彼女はみんなの期待に十分応えてくれたと思います。

「食堂ゆすかわ」は、決して大きな映画ではありません。ですが地元を愛する人たちの熱い想いがいっぱい詰まっています。つい最近、出演していただいた住民の一人がお亡くなりになり、お葬式に参列させていただきました。今から何十年か時が経ち振り返った時、この映画が単なる地域振興映画ではなく、その時そこに住んでいた人たちの姿や心を記録したドキュメンタリーでもあるということが分かっていただけなのではないかと思っています。

●平成26年度愛媛県営農振興TACトップセミナー TACの活動強化により地域農業の振興を！

J A全農えひめ営農振興課は、12月16日、J A愛媛で「平成26年度愛媛県営農振興TACトップセミナー」を開催しました。セミナーは、地域農業の振興に向けてTAC（地域農業の担い手に向く J A担当者）活動の充実と機能発揮を図ろうと開いたもので、J Aの常勤役員・担当部課長など約50人が参加しました。

セミナーでは、J A全農営農販売企画部から全国のTAC活動の取り組み状況と今後のレベルアップに向けた支援策、J A全農えひめから平成26年度の「トータルアグリード事業」の取り組みと27年度から取り組む「水田フル活用」の考え方を説明しました。

先進地事例報告として、兵庫県のJ A兵庫六甲の柳瀬博彰常務理事が、アンケート等を通じて組合員ニーズを把握し、総合的なTAC活動を通じて組合員の農業経営の向上とJ A事業利用の拡大につなげている事例を発表。J Aうまの加藤正雄常務理事と営農指導課の合田仁課長が、TACを中心とした生産から販売まで一体となった産地振興の取り組みの実践事例を報告しました。



J A全農えひめの諏訪玄県本部長は、「J A全農えひめは『トータルアグリード事業』を通じて農業所得確保と地域農業の振興に取り組んでおり、J Aの策定した地域営農ビジョンに基づき担い手の育成や法人化等の支援を進めています。農家との結びつきを強化しJ Aの事業を理解し結集を図っていくため、TACが中心となって現場力を発揮していくことが求められています。研修会や情報連絡会の開催を通じてTACの育成・資質向上を図りながら、愛媛チームとして営農振興に取り組んでいきたい」とあいさつしました。

●2014 J A農機ビッグフェア 農機の総合展示会に1,602人が来場

県内J AとJ A全農えひめ農機課は、12月5日・6日の2日間、取扱メーカー等の協力を得て、松山市のアイテムえひめで県内統一の農機総合展示会「2014 J A愛媛農機ビッグフェア」を開きました。

フェアは、農機の計画的・効率的な適正導入の促進と安全使用の啓発、効率生産に役立つ作業体系の提案や省力機械の普及促進、新機種・新製品の説明・研修などを目的に毎年開催しており、24回目。「負けるな日本農業、はばたけJ A農機」をテーマに、効率化や高品質生産に対応できる高性能機械・省力機械、新製品や小物特価品等を多数展示したほか、「トータルアグリード事業」のPRと推進資材の紹介、農作



業安全などの情報を発信しました。

県内各J Aから1,602人が来場し、最新農機のデモンストレーションなどを通じて性能や特徴などを確認していました

●ガンバレ受験生！イヨカン食べて“いい予感” 寺小屋グループ年末年始受験生への伊予柑配布イベントに協賛！

J A全農えひめ果実課は、今年も学習塾の寺小屋グループ（本部＝松山市）が「ガンバレ受験生！イヨカン食べて“いい予感”」をコンセプトに受験を控えた塾生に愛媛いよかんを配るイベントに協賛しました。

この取り組みは、「愛媛いよかん＝いい予感」というキャッチコピーで消費宣伝活動を行っているJ A全農えひめが協賛して6年目。合格の縁起物として、また受験前の大事な時期にビタミンCが豊富な伊予柑で風邪を予防してもらおうという思いも込めた取り組みです。大晦日から1月3日にかけて開催する「年末年始集中特訓」に参加している受験生を応援する恒例行事となっています。

12月31日、松山市湊町の市駅教場の教室では、授業を前に講師が中学・高校の受験生計169人に、袋に「合格祈願」の文字が入った五角（合格）形のシールが貼られた伊予柑を手渡し、「受験



まであとわずか。悔いの残らないように頑張ってください」と激励。中学受験コースの教室では、「皆で力を合わせて合格しよう」という講師の呼びかけに応え、全員がイヨカンを掲げて全員が元氣よく「合格のいい予感」と声を合わせ、志望校への合格を誓っていました。

同塾は、県内外23教場の年末年始集中特訓生受験生約1,300人に伊予柑を配布しました。

●平成26年産栗販売反省会 市場販売実績は402 t（前年比 113%）、kg単価648円（同92%）

J A全農えひめ果実課は、12月24日J A愛媛で「平成26年産栗販売反省会」を開き、愛媛県が全国第3位の生産を誇る栗の販売総括を行いました。

26年産の栗は、着穂数が品種や園地によってバラつきがみられやや少なめでしたが、生理落果が少なかったことから最終的な着穂数は近年ではやや多い状況で、梅雨明け以降の長雨や台風による大きな被害もなく生育は順調に推移。市場への初出荷は、前年より1日早い8月18日でした。

8月販売は、極早生が夏場の曇天の影響で小玉傾向となったことや加工向けの出荷比率の高まりなどから前年を3割下回る市場出荷量となりましたが、9月に入り徐々に回復。中旬以降は前年を上回る出荷ペースとなり、下旬以降は各産地最盛期を迎えて、県外産も増量したことから市場入荷量は一気に増大し相場は軟調に推移しました。

全国的に前進出荷傾向の中で、10月中旬までは潤沢な市場入荷が続きました。中旬以降は前年を下回る出荷ペースとなり相場は若干回復したものの、秋果実全体が豊作傾向の中で果実の販売状況は厳しく、単価は伸び悩みました。

この結果、市場向け販売実績は402t（前年比113%：計画比101%）、kg単価は648円（前年比92%）と数量増の単価安となりました。



●J Aグリーンえひめ七草粥お接待 「今年も元気に過ごせそう」 と大好評！

東温市北野田にある農産物直売所「J Aグリーンえひめ・フレッシュ市」は、1月7日、出荷会員が地元でとれた七草を「七草粥」にして来店客に振る舞いました。

この取り組みは、J Aグリーンえひめの出荷会員が組織するフレッシュ市部会が「お接待」として毎年取り組んでいる地域の消費者との交流イベントです。

当日は、出荷会員5人が早朝から大鍋で七草粥200人分を作り、来店客に無料で手渡しました。

七種の若菜の生命力を食し、邪気をはらうという習わしの七草粥を食べた方は、「美味しい」「体が温まった」「今年も元気に過ごせそう」などと笑顔を見せていました。



●平成26年度「愛媛県くり品評会」表彰式 農林水産大臣賞の笹本徳幸さん、 山村信昭さんらを表彰！

愛媛県くり研究同志会（大野奉孝会長、会員数2,150人）は、12月9日、松山市のJ A愛媛で平成26年度「愛媛県くり品評会表彰式」を開き、農林水産大臣賞を受賞した立木部門の笹本徳幸さん（J Aひがしうわ）と果実部門の山村信昭さん（J Aえひめ中央）をはじめ入賞者を表彰しました。

立木部門で農林水産大臣賞を受賞した笹本さんは、作業道整備、カットバックせん定により樹高3.5m程度に低樹高化を徹底。ドッシリと風格のある園地で、枝先までの丁寧な整枝せん定と施肥管理で樹齢を感じさせない新梢の伸び、葉の色つや、着実状況、肥大とも良好で生産性の高い模範園として高く評価されました。笹本さんは、「まさか受賞できるとは思っていなかった。まだ実感はわからないが、くり栽培を一生続けたい」と笑顔を見せていました。

果実部門で大臣賞を受賞した山村さんの紫峰は、果実の大きさ、果皮の光沢、果実の揃いが



▲農林水産大臣賞の笹本さん（左）と山村さん

群を抜いていました。山村さんは、「今年産は夏場の雨が多く苦労したが、受賞できてうれしい。受賞に奢ることなく、高品質なくり生産に取り組みたい」と受賞の喜びと今後の抱負を話していました。

※入賞者は11月号11ページのトピックニュースで紹介しています。

●甘平選果目あわせ会 品格を統一し「甘平」のブランド確立を！

J A全農えひめ果実課は、1月9日、愛媛オリジナル品種「甘平」の出荷を前に、八幡浜市のJ Aにしよう本所会議室で「甘平選果目あわせ会」を開きました。

目合わせ会は、消費者・販売先の期待に応えるため、品質の向上と品格の統一をめざして行っており3回目。J Aの生産販売・選果担当者と愛媛県、市場関係者など35人が出席しました。

目合わせ会では、J A全農えひめの担当者が、サンプル果実を見せながら選別・出荷基準を説明。品格・価格に見合った商品を出荷することを呼びかけ、確認しました。

「甘平」は、愛媛県が平成19年に品種登録した爽やかなシャキッとした食感と甘さが魅力の品種。面積・生産量とも年々拡大しています。

東京と松山の市場関係者が、「販売先は確保できている。粒単価の高い果実は、お金に見合う品格のものが求められる。甘平はスケールメリットを出すために愛媛産で販売しているが、ブランド化に向けて産地間のバラつきを是正す



ることが重要だ」と品質の均一化を呼びかけました。

26年産生産予想量（26年12月時点予想・J A関係）は、面積が前年比114%の160ha、生産量は前年比125%の1212.8t。

J A全農えひめ担当者は、「生産量は今後も拡大が見込まれるが、厳選出荷で市場単価は前年並み以上をキープしていきたい」と話しています。

●エミフルMASAKI「紅まどんな」店頭試食宣伝

愛媛みかん大使が店頭で「紅まどんな」をPR

J A全農えひめ果実課は、12月7日、伊予郡松前町のエミフルMASAKIなど愛媛県内3店舗で2014愛媛みかん大使が店頭試食宣伝活動を行い、出荷最盛期を迎えた愛媛オリジナル品種「紅まどんな」の贈答用や家庭用での購入を呼びかけました。

エミフルMASAKIでは、みかん大使の白石千尋さんが、来店客に試食を勧めながら「美味しい紅まどんなをお歳暮にどうぞ」と呼びかけました。特設コーナーは、「やっぱり美味しい」「香りもいい」などと試食して笑顔を見せたり、「今年は紅まどんなを送ろう」と発送手配する人などで賑わいました。

J A全農えひめは、12月14日にフジグラン松山でも同様の消費宣伝を行ったほか、生産拡大



に伴い各種媒体を活用したPR、首都圏や京阪神地域での店頭試食宣伝活動を拡大し、ブランド認知度の向上と販売促進に取り組みました。

●社会福祉協議会に贈呈

県内14の児童福祉施設に、もち米とジュースを贈る

J A全農えひめは、愛媛県社会福祉協議会を通じて県内14の児童養護施設・知的障害児福祉施設に、もち米650kgと「POM愛媛粒入り蜜柑伊予柑」など愛媛産の柑橘ジュース101ケースを贈りました。

この取り組みは、社会貢献活動の一環として、協同組合の相互扶助の精神のもと、児童福祉施設の子どもたちが明るいお正月を迎えられるように、昭和59年から毎年実施しているものです。

12月11日J A愛媛で贈呈式を行い、J A全農えひめの竹村靖管理部長が同協議会の森憲宣常務に「心ばかりではありますが、子どもたちのためにお役立てください」と目録を手渡しました。森常務からは、「毎年贈っていただきありがとうございます。子どもたちも楽しみにしています」と



▲目録を受け取る森常務（右）

お礼の言葉があり、J A全農えひめに感謝状の贈呈がありました。

●J A愛媛野菜生産者組織協議会社会貢献活動

愛媛慈恵会など児童福祉施設にいちごプレゼント

J A愛媛野菜生産者組織協議会は、社会貢献活動の一環として、楽しいクリスマスを迎えてもらおうと、松山市内3か所の児童福祉施設に愛媛県産のいちご計150パックをプレゼントしました。この取り組みは、昭和62年から毎年行っている恒例行事です。

松山市東本の児童養護施設・愛媛慈恵会では、12月19日、J A全農えひめ野菜花卉課の室賀敬三課長らが訪問し、園児代表の2歳から6歳の子どもたち7人に県内産のいちご「紅ほっぺ」と「あまおとめ」計50パックを手渡しました。

うれしそうに受け取った園児はさっそく試食し、「甘くて美味しい」「今年もイチゴをありがとうございました」とお礼を言いながら笑顔を見せていました。



同施設には、社会福祉協議会を通じて、J A全農えひめがもち米90kgとPOMみかんジュースなど12ケースを贈呈しています。

なんでもBOX

●第44回日本農業賞愛媛県代表表彰式 県代表に渡邊邦廣さんとJ A西条春の七草部会

第44回日本農業賞の愛媛県代表の表彰式（主催：J A愛媛中央会・NHK松山放送局）が、12月11日、松山市のJ A愛媛で開かれ、個別経営の部で(有)新城生産組合代表取締役の渡邊邦廣さん、集団組織の部でJ A西条春の七草部会（代表＝横井隆志さん）が表彰されました。

同賞は、日本農業の確立を目指し、意欲的に経営や技術の改善と発展に取り組み、地域社会に多大な貢献をされている農業経営体を表彰するものです。

渡邊さんは、転作田の団地化や耕作放棄地の有効活用による高収益農業をめざし、平成12年に新城生産組合を立ち上げ、現在は22haの農地を集積。高齢化が進む中で耕作放棄地の解消や水稲・麦・大豆の生産・加工・販売の一貫経営体制の確立を実現。(有)新城生産組合は正社員5名とパート5名で、地域農業の中核を担っており、意欲的で個性的な経営、6次産業化型の経営で高付加価値経営を実現し多様な形で地域農業・地域社会に貢献している点などが高く評価されました。渡邊さんは、「任意の団体から出発し、平成27年で15年を迎えます。会社のモットーとして、百姓の原点に返ろう、飯の食える農業にしていこうと、地域の協力も得ながら皆で頑張ってきて、何とか将来への礎ができたかなと思っています。若い後継者も2名入社して意欲的に取り組んでおり、若い力・行動力とアイデアを活かしながら、私たちと地域と一緒に



▲渡邊さん（左）と横井さん

なって、新しい農業経営にまい進していきたい」と今後の抱負を話していました。

J A西条春の七草部会は昭和60年に発足し、J Aとの連携プレーで栽培技術と販路の確立等により産地化に成功し、部会員1戸当たりの平均経営耕地は1ha未満で平均収入1,500万円と小規模高収益経営を実現。世代交代も円滑に進んでおり、部会員の平均年齢は56歳と若く意欲的。雇用の場としても地域の活性化に寄与するほか、学校給食や出張授業などを通じた食農教育や伝統文化の継承等でも優れた実績を上げていることなどが評価されました。横井さんは、「七草部会30周年を迎え、取り組みが評価されてうれしく思います。食の伝統文化である春の七草の産地をこれからも守り続けていきたい」と受賞の喜びを話していました。

J A西条「春の七草」出荷量が初の100万パック超え

J A西条「春の七草」は、14戸の農家が約14haで七草を栽培し、全国トップクラスの出荷量を誇り、「新鮮・安全・安心・均一」な商品は、出荷市場や量販店から高評価・信頼を得ています。

26年産は順調に生育し、注文も多く入り出荷量は初めて100万パックを突破。京阪神地区を中心に県内、全国（北海道から中国地区まで）に103万パック以上（前年実績約98万パック）を出荷しました。

J A西条の七草の収穫・選別・出荷は、鮮度を保つため、短期決戦の作業。収穫作業が大晦日の昼から、パック詰めと出荷は1月1日からそれぞれスタート。4日～6日をピークに、



▲七草のパック詰め作業（1月2日）

期間中は高校生を中心に管内で1日あたり約2,000人を動員して出荷が行われました。

統計BOX

農業産出額は、前年に比べて61億円増加(愛媛県)

— 平成25年農業産出額及び生産農業所得の結果から —

1 年間の農業生産の実態を価値量的な面から把握し、どれだけの価値が生み出されたかを示す指標として農業産出額があります。

我が国の農業総産出額は、昭和59年の11兆7,171億円をピークに、その後は、総じて減少傾向で推移しています。平成25年の農業総産出額は8兆4,668億円で、米の産出額が減少したことにより前年に比べて583億円(0.7%)減少しました。そこで今月は、愛媛県の農業産出額についてみていきます。

愛媛県の農業産出額は1,291億円

平成25年の愛媛県の農業産出額は1,291億円で、前年に比べて61億円(5.0%)増加しました。このうち耕種部門の産出額は996億円で、前年に比べて59億円(6.3%)増加しました。これは、前年に比べて米が13億円減少したものの、キャベツ、さといも等の生産量の増加と価格上昇で野菜が29億円、みかん等の生産量の増加とかき、キウイフルーツの価格上昇で果実が23億円、野菜苗の生産量の増加等によりその他作物が20億円それぞれ増加したためです。また、畜産部門の産出額は295億円で、前年に比べて2億円(0.7%)増加しました。これは、前年に比べて鶏が13億円減少したものの、価格の上昇等により

豚が12億円、肉用牛が3億円増加したためです(図1)。

品目別では「みかん」が1位

愛媛県の上位5品目の産出額は、平成18年から8年連続して1位がみかんで237億円(シェア18.4%)、2位が米で168億円(同13.0%)、3位が豚で132億円(同10.2%)、4位が鶏卵で62億円、5位がいよかんで56億円となっており、上位5品目で全体の約半分を占めています(図2)。このうち、みかんの産出額は全国(1,547億円)の15.3%を占めており、全国第2位。いよかんの産出額は全国(64億円)の87.5%を占めており、全国第1位となっています。

我が国の農業・農村は、農業従事者の減少や高齢化、農業所得の減少などに直面するといった厳しい状況にあります。このため、農林水産省では、「農林水産業・地域の活力創造プラン」に基づき、農林水産業を成長産業化して、農業・農村の所得増を目指すとともに、美しく伝統ある農山漁村の継承と食料自給率・自給力の維持向上に向けた施策を展開します。

※表示単位未満を四捨五入しているため、計と内訳が合わない場合があります。

中国四国農政局
松山地域センター農政推進グループ

図2 主要品目の農業産出額に占める割合(愛媛県)

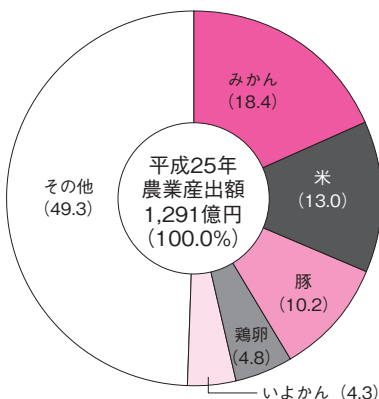
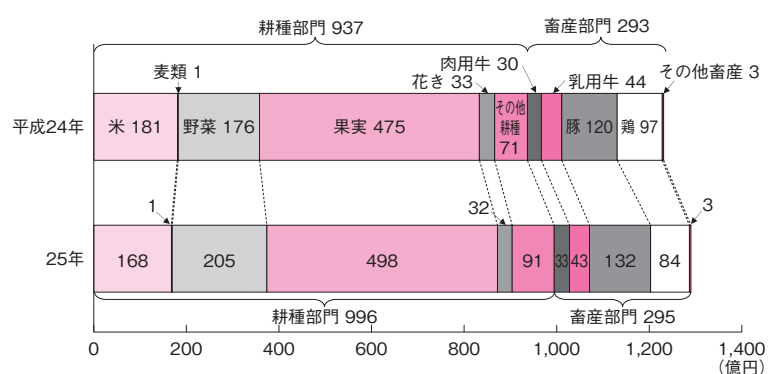


図1 主要部門における農業産出額の内訳(愛媛県)





●農の風景のブランド肉のPRイベント。「ひめキュンフルーツ缶」の女の子たちがそれぞれ肉のバックを持っただけで美味しそう。また、「紅まどんな」の記事を読んで、年末贈答時期にとっても良い品だと思えます。今年、1ケースだけ買ったのですが、とても好評でした。皮が薄くてジューシーで、また一つ愛媛県の名物が増えましたね。

(西条市・武田 五月さん)

●高齢化が進む農業にとって、安全な食糧や自給する取り組みは、生産者と消費者が一体となって取り組むことが重要だと思います。そういう中で、レインボーフェスティバルのようなイベントを通して、特に若い生産者と消費者のつながりを強めていくことが大切だと思います。山間地農業が抱えている耕作放棄地の問題は何かとしても早く手を打たなければ取り返しがつかない状況になります。そこで、耕作放棄地を利用した牧場のようなところがあれば記事として取り上げてほしいと思います。

(内子町・富永 嘉明さん)

●愛媛県が、「そらまめ」の生産量が全国第4位とは知らなかったです。天候には勝てません。昨年のみかんの収穫は、早生ミカンが順調だったのですが、12月の天候不順で雪やあられの影響で、南柑20号は半分は畑に摘み落としました。涙です。「せつかくきれいで玉の大きさもよかつたのに」やっとなってきたみかんも、選別したら半分も出荷できない状態でした。近ごろはこんな感じが多いので、南柑20号は減らそうかと考え始めました。

(八幡浜市・米花 佐智子さん)

●統計BOXを読んで、そらまめの収穫量が全国第4位と知りビックリです。私たちは農家なので何でも当たり前に米・野菜・果物をいただいていた。高齢化や担い手の減少、異常気象、今まで年輪的に考えていませんでした。心が配になりました。「愛媛の野菜」の知名度向上と消費拡大を進め頑張っていきたいと思っています。

(西条市・白木 あゆみさん)

●11月のレインボーフェスティバルは残念ながら行けませんでした。たくさんのお写真から、

子どもから大人まで楽しそうな笑顔が誌面いっぱい載っていて、来年はぜひ参加したいなと思いました。

(今治市・本宮 秀美さん)

★編集部より：農産物の収穫量を都道府県別に見て、愛媛県が1位というのは、「はだか麦」「キウイフルーツ」「伊予柑」「せとか」「ボンカン」「清見」「はるみ」などです。全国でも上位の品目は、「そらまめ」(4位)、「さといも」(8位)、「乾しいたけ」(4位)、「かき」(6位)、「くり」3位、「びわ」5位のほか、「みかん」(2位)、「なつみかん」(3位)、「しらぬひ」(2位)、などがあります。JA全農えひめのホームページ内の「愛媛の農業」コーナーで紹介していますので、機会があればぜひご覧ください。なお、愛媛県の集計では、柑橘類は1位や上位につけている品種が多くあり、柑橘類全体では昭和49年以降平成24年産まで39年連続生産量日本一となつています。

●エッセー森さんの「自分の夢を持ちながらもそれをあきらめた言い訳ばかりうまくなる大人にだけはなりたくなかった」という言葉にエネルギーをもらいました。自分の信念を持って、未来に向かっている青年に刺激されます。

(松山市・大西 傑さん)

●映画を作る人になるという夢のような望みをちゃんと形にして実現した森幸一郎さんのエッセーを読んで、本当に自分もこのままでいいのか？と考えさせられました。何かを始めるには、今より早い時はないという言葉も心に深く残りました。私も年のせいにせず、夢だったことに勇気をもって取り組んでみようかと思えます。

(今治市・加藤 仁美さん)

●愛媛みかん大使の皆様いつも素晴らしい笑顔で頑張っている姿に感謝しています。一見華やかのように見えますが、実は大変な仕事ですね。これからも愛媛のキャンキツのPRよろしくお願ひします。

(今治市・阿部 徳子さん)

今月のクイズ

JA全農えひめは、愛媛いよかんの消費宣伝活動を展開しています。縁起物として活用しているキャッチコピーは？○に入る漢字2文字をお答えください。

「愛媛いよかん＝いっ○○」

プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。

締切り

平成27年3月18日(当日消印有効)

発表

「あぐりーど」4月号で発表します。

当選者発表

12月号の答えは「石川佳純(選手)」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10の方に図書カード1,000円分をお送りします。

宮内 洋介さん(八幡浜市)	矢野 吉信さん(大洲市)
梅川 幸治さん(内子町)	嶋津 幸子さん(青森市)
井出 幸恵さん(今治市)	松尾 紅子さん(西条市)
平野 まゆさん(松山市)	青野由美子さん(西条市)
越智小代奈さん(西条市)	池田奈緒美さん(松山市)

編集後記

★30年ぶりに「愛媛いよかん」の消費宣伝活動を展開しています。縁起物として活用しているキャッチコピーは？○に入る漢字2文字をお答えください。

NOW NOW

COOKING

今月の素材

ブロッコリー



ビタミン豊富で、栄養満点
ビタミンCはレモンの2倍！

▶(左)ブロッコリーのオイルパスタ、(右前)ブロッコリーの
カレー炒め、(右後)ブロッコリーの味噌チーズ和え



指導／学校法人愛媛学園（愛媛調理製菓専門学校）大佐古 正子先生

ブロッコリーのオイルパスタ

〈材料・4人分〉	※1人あたり約464kcal
ブロッコリー	1/2株
ツナ	1缶
タマネギ	1玉
白菜	2枚
パスタ（スパゲッティ）	360g
水・塩	適量
オリーブオイル	大さじ2
輪切り唐辛子	5個
ニンニク（みじん切り）	1かけ分
水	150cc
昆布茶	小さじ1
塩・コショウ	適量
粉チーズ	適量
黒コショウ	適量
EXVO油（エキストラバージン オリーブオイル）	適量

〈作り方〉

- ① ブロッコリーは小房に分けておく。
- ② タマネギは半分に切り、薄切り。白菜は縦半分に切り、1cm幅に切る。
- ③ 鍋にたっぷりの水を沸かし、塩を入れてパスタを茹でる。パスタが茹で上がる30秒前に①を入れ、パスタと共にザルにとる。
- ④ フライパンにオリーブオイル、唐辛子、ニンニクを入れ、弱火で香りを出す。
- ⑤ タマネギを入れて炒め、ツナと白菜を入れて軽く炒め、水と昆布茶を加えて、③を入れ、全体を混ぜ合わせ、塩・コショウで味を調える。
- ⑥ 器に盛りつけ、粉チーズと黒コショウ、EXVO油をふる。

ブロッコリーの味噌チーズ和え

〈材料・4人分〉	※1人あたり約135kcal
ブロッコリー	1株
むきエビ	100g
セロリ	2本
塩	少々
④ クリームチーズ	80g
④ 味噌	大さじ1
④ 牛乳	大さじ2
④ 薄口醤油	小さじ1
アーモンド（みじん切り）	適量

〈作り方〉

- ① ブロッコリーは小房に分け、さっと塩茹でし、水にさらし、冷やしておく。
- ② むきエビは塩茹でし、冷水にとり、冷やす。
- ③ セロリは筋をピーラーでとり、斜めにそぎ切りにして、塩をふり、しんなりさせる。
- ④ ボウルに④を入れてよく混ぜ、水気をよく切った①②③を加えて、さっくり混ぜ合わせる。
- ⑤ 器に盛りつけ、アーモンドをふる。

ブロッコリーのカレー炒め

〈材料・4人分〉	※1人あたり約339kcal
ブロッコリー	1株
鶏ムネ肉	1枚
タマネギ	1玉
人参	1/3本
卵	2個
カレー粉	小さじ1
カレー粉	大さじ1
サラダ油	大さじ2
④ 酒	60cc
④ 砂糖	大さじ2
④ 濃口醤油	大さじ1
塩・コショウ	少々

〈作り方〉

- ① ブロッコリーは小房に分けておく。
- ② 鶏ムネ肉はひと口大のそぎ切りにし、カレー粉（小さじ1）をまぶしておく。
- ③ タマネギは半分に切り、薄切り。人参は薄めの短冊切り。
- ④ 卵は溶きほぐし、フライパンに油を熱し、いり玉子を作り、取り出しておく。
- ⑤ フライパンに油を熱し、②を炒め、③を加えてカレー粉（大さじ1）を入れて炒め、④と①を加えてさらに炒め、塩・コショウで味を調える。
- ⑥ ⑤に④のいり玉子を加えて、混ぜる。

いよかん
スパークリング

愛媛県産 伊予柑果汁使用

香りで味わう 伊予柑炭酸

伊予柑果実そのものから採った
3種類の香り成分を原料とした香料を使用。
伊予柑果実そのままの香りを再現しています。

いよかん
スパークリング

株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地
TEL: 089-923-1500 FAX: 089-924-0304

http://www.ehime-inryo.co.jp
(通販専用) http://www.pom-j.com

きれいな肌は、
きれいな服より
恋を实らせると思う。

ビタミンCを摂取しよう！

愛を伝えるものって
バラの花以外にない
と思ってました。

オレンジも“愛のシンボル”

みかんの
季節到来とともに
受験と恋の季節が
やってくる。

ドキドキがとまらない！

家族とこたつと
みかん。
心地よいぬくもり。

みかんが人をつなぐ。

カラダに「愛」を。
ココロに「愛」を。

愛媛のみかん

愛のオレンジロード オレンジは“愛のシンボル”。「オレンジデー」までの記念日に贈り合って、大切な人との絆を深めませんか。

11/3 12/3 ♡ みかんの日 恋するシーズンの到来 〈旬の柑橘〉温州みかん、紅まどんな、POM 愛媛みかん旬ストレート100	1/14 ♡ いい予感 恋愛成就のいいきざし 〈旬の柑橘〉伊予柑、ポンカン	2/14 ♡ バレンタインデー 愛を届けよう 〈旬の柑橘〉伊予柑、ポンカン、はるみ、甘平	3/14 ♡ ホワイトデー 愛に応えよう 〈旬の柑橘〉デコポン、せとか
4/14 ♡ オレンジデー 愛を深めよう 〈旬の柑橘〉清見タンゴール、カラマンダリン			

4.14 Orange day

ふたりでみかん。

4月14日はオレンジデーです。

詳しい内容はホームページをチェック！

愛のオレンジロード [検索](#)

JA全農えひめ